



# 進路だより

## I 「進路のしおり」を配付しました

本日、「進路のしおり」を配付しました。あわせて、学活に時間に「進路のしおり」を使って、各種学校の特色や入学者選抜について、担任と一緒に確認しました。



「進路のしおり」は基本的には家庭保管となります。今後、進路学活で使用したり、願書の下書き練習等で使用したりすることがあります。いつでも学校に持ってこられるように大切に保管しておいてください。

「進路のしおり」に記載されている内容は多岐にわたりますが、主に下記のことが記載されています。

- |          |                               |
|----------|-------------------------------|
| I 進路設計編  | ① 高校、高専、定時制・通信制高校などの特色について    |
|          | ② 奨学金制度について                   |
|          | ③ 公立高等学校の入学者選抜について            |
|          | ④ 公立高等学校の入学願書の書き方について         |
|          | ⑤ 面接について                      |
| II 学校探究編 | ⑥ 学校の紹介ページ                    |
| III 活用編  |                               |
| ◇ 一覧表    | 公立全日制、公立定時制・通信制、高等専門学校、私立高等学校 |

⑥の学校紹介ページには、

- 1) 校訓
- 2) 教育目標
- 3) 特色
- 4) その学校での学びについて
- 5) 部活動
- 6) 卒業生の進路
- 7) 交通機関

等が記載されています。

また、明日27日(木)には第2回進路希望調査用紙を配付する予定です。進路希望調査用紙には、p.277～287の「学校一覧表」を見て正式名称で書くようにしてください。今年度から募集を始めた高校やコース名が変更になった高校があります。

## Ⅱ 受験(検)勉強を行うに当たって

中体連の真っ最中ですが、そろそろ受験勉強も本格化していきたいところです。受験生として学習に関する意識を高めるためにも、ここで受験(検)勉強に関する心構えを改めてご紹介します。

受験(検)勉強と単元テストの違いは、ズバリ「範囲の広さ」と「総合的な学力」です。当たり前の話ですが、

入学試験は、中学校で学ぶ3年間分が範囲、  
単元テストは、中学校で学ぶ1～2か月が範囲 です。



単元テストは、授業で学んですぐに行われるので、授業中真面目に話を聞いて理解していれば、またはワークなどでしっかりと復習していれば、結果を残せます。範囲も狭いので、何を理解していて、何を理解していないのか、自分でも把握しやすいですね。

でも入試は違います。中学校3年間は36カ月です。出題範囲は広く、しかも総合的な力をみる問題も出題されます。例えば、国語や英語は、教科書で1度学習した文章ではなく、初めて読む文章を自分で読み解いていく力が試されます。社会も、地理的な分野と歴史的な分野を複合させた問題なども出題されることもあるでしょう。

入学試験の問題は、「学力検査」と言います。「試験」と言わないのは、試し、トライアルという意味合いではなく、中学校3年間で身に付いた学力を検査し、その学校にふさわしいかどうか(可否、適不適)を判断するからです。

そう考えると、私たちは入試に備えるために、何度も何度も復習し、しっかりと学力を定着させること。その上で、身に付いた知識を応用する力を付けること。この2つの力が求められているのです。

今年度から、定期テストのような長い範囲のテストはなくなりました。本当に力が付いているのかどうか、試す機会は、9月から月に1度実施される学力テストしかありません。もしくは、校外で実施される模擬試験(コンクール)だけです。学力テストで結果を残すことが、実力があることの証明です。ですから、そう、今からコツコツと取り組んでいくしかありません。

*準備をして、力を出し切る。前向きに、がむしゃらに努力し続けることで道は拓ける！！*

( 担当 鹿野内 Tel 897-4584 )